

○令和7年3月30日に開館した鳥取県立美術館は、「オープンネス」をキーコンセプト（中心の考え）として位置づけ、「誰に対しても開かれ」、「多様性を受け入れる」ことを運営の基本姿勢とし、そのことが美術館の魅力や特徴につながるものと考えています。

○この「オープンネス」をさらに推進していくにあたり、鳥取県立美術館に「こうなって欲しい」、「もっと力を入れてもらいたい」とあなたが考えるものを、次の①～③の候補の中から投票してください。

①誰もが安心して楽しめる美術館

障がいのある方、高齢者、小さな子どもを連れた方など、すべての人が安心して楽しめる美術館を目指します。

〔現在の取組〕

- 視覚に障がいがある方のために、作品に近づくとき自動的に音声ガイドが再生される専用機器を提供。
- 作品の概要を触れて確認できる「触図」（凹凸をつけて作品のアウトラインを浮き彫りにしたもの）を作成したり、陶器など触ることのできる作品を特集したりするなどし、触って楽しむ鑑賞会を開催。
- 視覚・聴覚両方に障がいのある方のために、「指文字」、「触手話」などのコミュニケーション方法による通訳に付き添っていただきながら作品解説などをする鑑賞会を開催。
- 光や音に敏感な方や、大勢の人が苦手な方のために、静かな鑑賞会を開催。
- 高齢の方のために説明文等の文字を大きくする。
- 同伴する子どもが騒いでも気にしなくてよい時間帯（毎週水曜日午前中）を設定。

〔想定される取組例〕

- 障がいがある方のための特別の鑑賞会の定期化（現在、年1、2回程度）。
- 視覚に障がいのある方のための移動支援ツール、弱視（視力の低い方）の方のための視覚支援機器、作品に近づくとき自動的に音声ガイドが再生される専用端末など、支援機器の導入。

②誰もが使える、開かれた場所としての美術館

プロのアーティストだけでなく、美術が好きな人なら誰でも自由に作品を発表できる場所、また、美術に限らず、様々な表現活動ができる場所を提供し、多様な表現や考え方を受け入れる美術館を目指します。

〔現在の取組〕

- 美術館の「県民ギャラリー」「ひろま」「スタジオ」などのスペースを、次のようなイベントに活用。
 - ✓ 伝統工芸品半世紀展（主催：鳥取県物産協会・鳥取県）
 - ✓ こどもの未来を育むアート展（主催：鳥取県児童福祉入所施設協議会）
 - ✓ 表千家同門会（主催：表千家同門会鳥取県支部） ※主な内容：お茶会、焼き物展示、講演
 - ✓ 全国代表書作家展（主催：全国代表書作家展実行委員会） ※主な内容：書道作品展示
 - ✓ にっこり会（主催：認知症の人と家族の会鳥取県支部） ※認知症当事者・家族の交流会
 - ✓ ヨガ体験会
- 「ひろま」を活用した演劇プログラムの開催。

〔想定される取組例〕

- 休館日に「ひろま」を活用した音楽その他パフォーマンス型のイベントの開催。
- 屋外のテラスや「えんがわ」、美術館前の芝生スペースなどを活用した野外フェスティバルの開催。

③地域とつながり、県全体に広がる美術館

県立美術館だけでなく、県内の他の美術館や博物館と協力し、地域全体を文化や芸術に触れられる場所（アートでいっぱい）にしていき、さらに県全体に広がっていきます。また、観光振興や地域づくりの取組と連携し、地域の活性化に貢献します。

〔現在の取組〕

- 県立博物館、倉吉博物館、円形劇場くらしフィギュアミュージアム、米子市美術館等、県内の他施設と連携し、共同企画展を開催。
- くらし打吹まつり、やきとり JAPAN フェスティバルなどの地域のイベントと一緒に、周辺地域の盛り上げと美術館の来館者数増加の相乗効果を図る。
- 大阪・関西万博で開催される「障害者の文化芸術国際フェスティバル」などの催しの関連イベントを県立美術館で開催し、万博から鳥取県への誘客を図る。

〔想定される取組例〕

- 首都圏や関西圏からの美術館ツアーや建築物ツアーを誘致し、県立美術館や周辺地域さらには県内への来訪者の増加、滞在日数の長期化を図る取組への協力。
- 「瀬戸内国際芸術祭」のような国際芸術祭に鳥取県から参加し、将来的には県立美術館や周辺の博物館等を拠点とした国際芸術祭の開催を目指す。